

中二国語科通信

第5号
平成30年11月12日
国語科2年担当
奥池・高嶺・狭間



やわらかく陽のさす部屋に嬰兒の
かすかな寝息聞こえている午後

「修学旅行」
奥池 大和

言葉の力

教科書の教材として、大岡信氏の「言葉の力」を学習しました。その発展学習として「言葉の力を感じたとき」をテーマに、五百字程度の文章を書いてもらいました。その中の数作品は宮日に応募しました(結果を楽しみに待ちましょう!)。今回は、応募には至らなかったけれど心に残ったH君の文章を紹介します。

速報!

日高先生の御長女
誕生! 10月9日、2
706グラムの「七緒
ちゃんです。」

「心を動かす『力』」

一組 H君

私は心を動かす「力」を感じたことがある。それは怒られた時だ。

その時に言われた言葉はいつも聞く言葉と違い、心の中のなにかが痛む。自分は悪くないと思ってもその心を「自分が悪い」と思わせてしまう。人が怒られているのを聞いても自分の心が痛む。そしてその痛みは自分を抑制する力になる。「自分は痛くなりたくない」という心は人を抑制する力になるのだ。怒られた時に心が痛むのは自覚しているから、と人は言うが、他の人が怒られた時にも「自分の心」が、自分が怒られている感覚に陥ってしまうのだ。

もう一つがその逆の、褒められた時である。

良いことをしたら褒められる。この思いがあつて自分は良いことをしようとする。褒められた時に言われる言葉はとても自分をポジティブにする。その力も他の人に影響を与える。その心はみんなを幸せにする力がある。

言葉の持つ力は、同じ言葉でありながら言われる状況などでさまざまに動く。その力をどのように使うかで人は悪くもなり良くもなつてゆくだろう。

◆具体例はないけれど、頭の中で考えたことを一生懸命言葉に紡ぎ出していった感じがよく表れた文章だと思えます。

言葉の獅子

十月のテーマは「二十四時間営業は必要か?」でした。

「利用しない人の存在」

2組 Iさん

私は、二十四時間営業に反対だ。

まず、働く人の立場から考えると、夜勤もあり過重労働が心配され、生活リズムも崩れてしまう。二十四時間営業を無くすことで、より働きやすい環境を作れるだろう。周囲の人の立場から考えると店の明かりや、駐車場での車の音で、夜は迷惑に感じるかもしれない。

たしかに二十四時間営業は便利だが、利用しない人のことを考えると、やはり必要ではないと私は考える。

「二十四時間営業の利点」

3組 H君

二十四時間営業は、私は必要だと思う。まず、夜中の急用でも使えるからだ。夜中に何かあったとき、店が開いていると便利だ。

次に、防犯対策になるからだ。実際に、夜中に店が開いていたことによって、ストーカーから逃げられたという事例があった。また夜の暗い中、明るい店があると人は安心する。

このように、二十四時間営業しているからこそその利点がたくさんある。よって、私は必要だと思う。

皆さんが修学旅行を直前に控えて、うきうきしているのを見ると、自分が中学生だった頃の修学旅行が思い出されます。行き先は東京でした。朝、こんな日ばかりはしっかりと早起きして、新幹線に乗るための駅へ。早朝だったせい、いつもの喧騒はなく、静かな駅前の広場に、浮かれている私たちは何となく場違いな気がしたのを覚えています。でも、そんなことは新幹線への乗車ですぐに忘れ、車内でのトランプに夢中になったり、左手に見えた富士山に車内が沸いたり。そんな修学旅行で、特に印象的だったのは四つです。一つ目は国会議事堂。外見や中の様子は今でも覚えていますが。二つ目は、自由行動で行った造幣局。ここでは紙幣の山が見られる!と思っていたら、実は硬貨しか作っておらず、ショックを受けました。三つ目は、泊まった宿。とても疲れている中で、話し込んだり遊んだり、カクテルで眠りに落ちていたり…。四つ目は、東京ドームシティアトラクションズ。東京ドームのそばの遊園地です。苦手なジェットコースター(軽め)に挑戦したり、ドラマの撮影現場で有名俳優に遭遇したりと、とりあえず楽しかった記憶があります。自分の記憶を書き出してみて、意外と覚えていることに少々驚きました。やはり、修学旅行は学生時代、または人生における大イベントの一つなのでしょう。何年経っても思い出せるような、実り多き旅にしてくださいませ。お土産話、待っています。